

株式会社ユニカフェ  
2025年度 サステナビリティレポート



- ユニカフェグループが考えるサステナビリティ
  - ・はじめに
  - ・推進体制
- 2025年度の取り組み
  - ・マテリアリティマップ(重要度評価)
  - ・ユニカフェグループのマテリアリティ
    - 1.気候変動・自然環境改善への貢献
    - 2.持続的なサプライチェーンの維持
    - 3.高品質な製品・魅力的な価値提供
    - 4.多様な人材の活躍と連携
    - 5.コーポレート・ガバナンスの徹底
- 人権の尊重ー人権デューデリジェンスの実施



# ユニカフェグループが考えるサステナビリティ

## はじめに

ユニカフェは、企業理念に掲げる「人と環境に優しい企業」を目指しています。コーヒー産業を取り巻く人と環境には、国際価格に左右されるコーヒー農家の収入、強制労働や児童労働など人権侵害の可能性をはらんだ就業環境、また栽培から消費に至るまでの温室効果ガスの排出、気候変動による生産環境の悪化などの問題があります。これらの問題はSDGsの目標とも深く関連しており、優先的に取り組む必要があると考えています。ユニカフェグループは、「Think Globally As a Roastery」のスローガンのもと、持続可能な社会の実現に向けた重要課題を経営戦略に紐づけて取り組んでいます。

## Think Globally As a Roastery



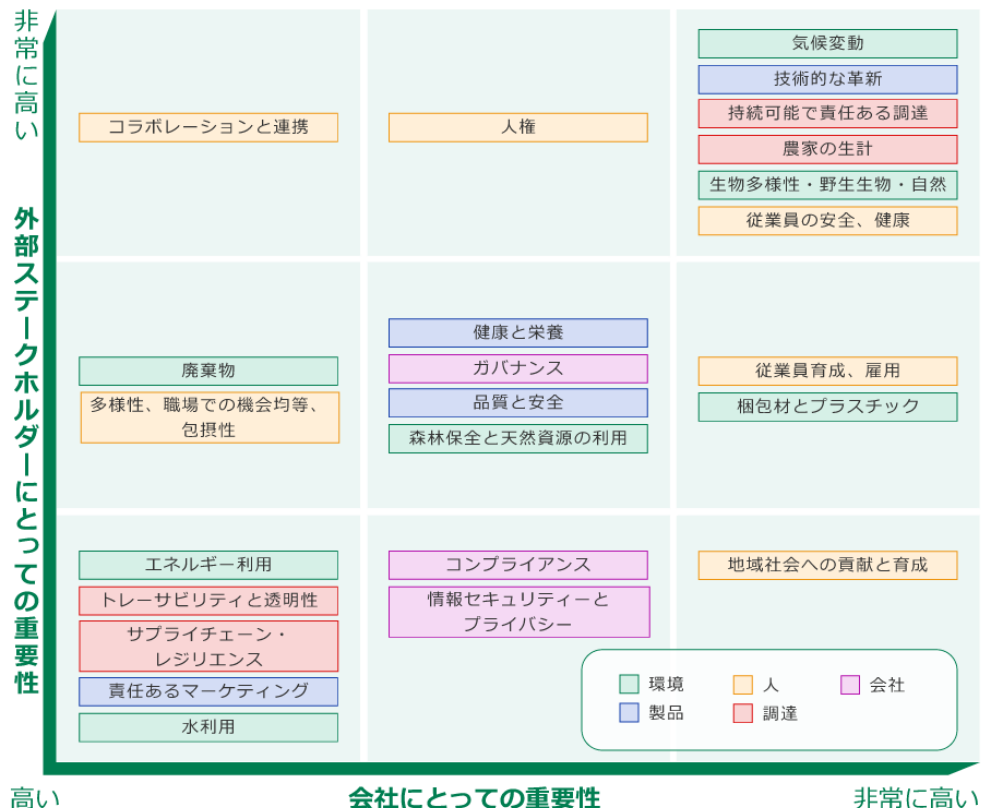
## 推進体制

ユニカフェグループでは、サステナビリティへの対応を全社的かつ組織横断的なものとし、円滑かつ効果的に推進することを目的として、下図のようなサステナビリティ推進体制で活動を行っています。活動の運用管理をサステナビリティ推進室が行い、具体的な取り組みの遂行は各本部からメンバーを選出したサステナビリティ委員会が行います。推進室と委員会で定期的に進捗報告会を行い、連携を図っています。委員会での検討結果は適宜取締役会へ報告の上、経営戦略として反映していきます。



## マテリアリティマップ(重要度評価)

2023年度に、ユニカフェグループでは社内・社外にとっての重要性を2軸として重要度を評価し、マテリアリティ・マップを作成しました。検討したどの課題も、社会的な重要度は高いため、評価軸の幅は最低でも“高い”となっています。そのため、対応する課題を絞るのではなく、優先度をつけてすべてに対応する姿勢をとっています。



## ユニカフェグループのマテリアリティ

ユニカフェグループのマテリアリティは、以下の5つの項目です。

1. 気候変動・自然環境改善への貢献	気候変動リスクを緩和し、自然環境を改善するためにできることを実施します。
2. 持続的なサプライチェーンの維持	コーヒー産業の維持・発展のため、サプライチェーンの現状を見つめ、未来に向けた再構築を行います。
3. 高品質な製品・魅力的な価値提供	お客様・消費者の方々に寄り添い、時代に合った価値を提供できるよう製品や新分野の開拓に努めます。
4. 多様な人材の活躍と連携	ユニカフェグループに関わる誰もが心身ともに健康的に人生と仕事を両立できるよう、生産地、従業員の人権を守り、パートナー様、地域の方々などにより良い影響をもたらすよう努めます。
5. コーポレート・ガバナンスの徹底	全てのステークホルダーのために、自律的に、かつ透明性を持って統制します。

# 1.気候変動・自然環境改善への貢献

## ユニカフェグループが目指す姿

コーヒーは、栽培時の気温や降雨量に生育が大きく左右される作物であり、気候変動による課題を多く抱えています。ゆえに気候変動への対応は、産業そのものの維持発展に大きく影響する重要課題です。ユニカフェグループは、異常気象や自然災害の原因となる気候変動を緩和し、また自然への負荷を低減・回復させることに貢献する取り組みを行い、持続可能な社会の実現を目指します。

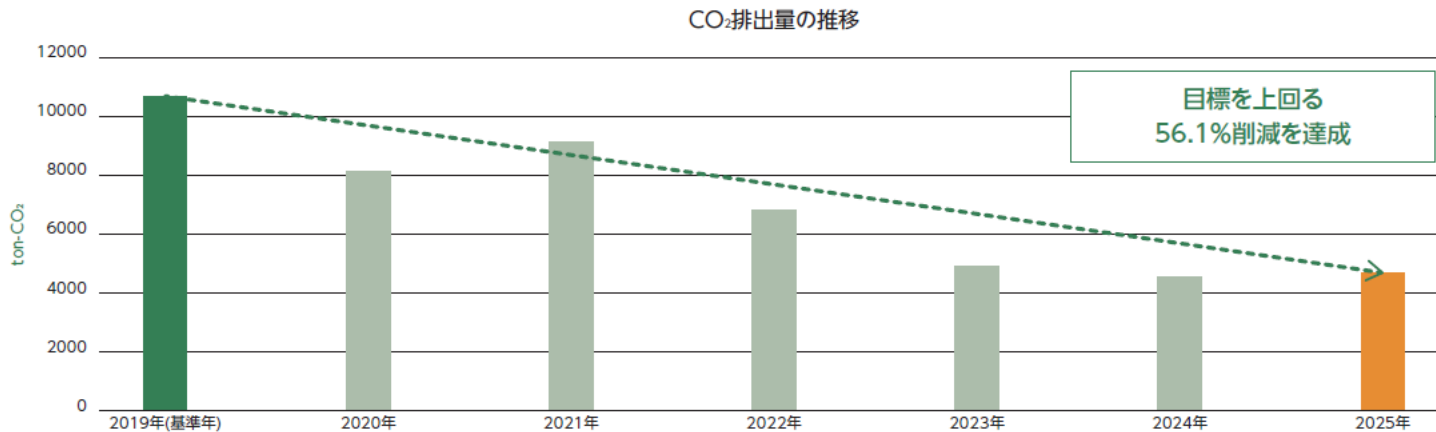
## GHG排出量を削減する

目標:事業活動によるGHG排出量削減(基準年:2019年比)

2025年:Scope1・2 46%削減

2040年:Scope1・2・3 カーボン・ニュートラル

事業活動によるScope1・2のGHG排出量を2025年までに46%以上削減するとの目標につきましては、目標を上回る56.1%の削減を達成しました。引き続き、2040年度のカーボンニュートラルの実現を目指してまいります。



## 消臭脱臭装置の導入・省エネバーナーへの切替え

焙煎機には全て脱臭装置を設置しており、焙煎機から出る排気ガスは、従来、触媒燃焼方式の脱臭機を通りクリーンな空気にし、悪臭の除去や焙煎時に発生するチャフ・微粉の除去を行った上で屋外へ排出されています。

消臭脱臭装置は、ミスト状の消臭剤を有臭ガスに噴霧し臭いを消す設備です。臭いを抑制すると共に、従来の触媒燃焼方式の脱臭装置と異なり、クーリング工程から排出される有臭ガスを高温にするためのLNG使用量の削減が見込まれます。

また、焙煎機のバーナーを、最新型の省エネタイプバーナーへ交換を行うことで、熱効率がよくなりLNG使用量の削減が見込まれます。



変更後の消臭剤噴霧ダクト

消臭剤を噴霧するノズル(拡大)

# 1.気候変動・自然環境改善への貢献

## 廃棄物削減及び資源循環を行う

目標: 自社製品に使用する包材を順次環境包材へ切替え

包材フィルムの薄肉化によるプラスチック使用量の削減に継続的に取り組んでいます。包材の切替えにより、年間978.6kgのプラスチック使用量削減を図ることができました。  
また、製品の印字方式をサーマルプリンターからUVレーザー式に変更したことにより、サーマルリボンのプラスチック廃棄を年間約730kg削減しました。  
引き続き、製造工程におけるプラスチック使用量および廃棄物の削減の取り組みを図ってまいります。

目標: コーヒー残渣のリサイクル率 2030年 100%

## 牧場での再利用

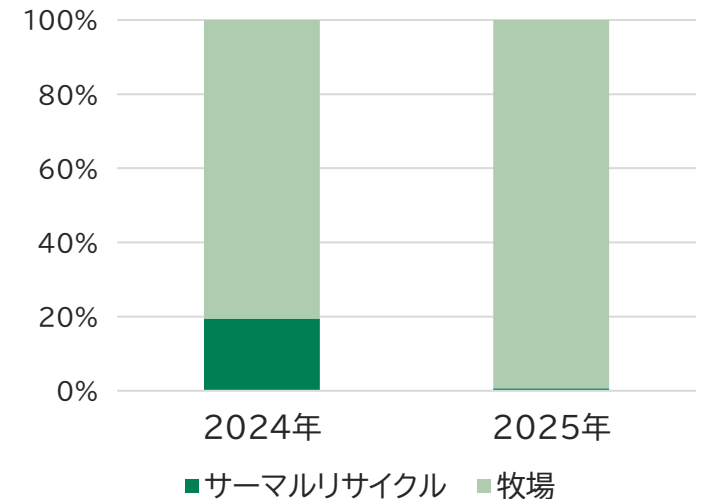
製造工程で生じるコーヒー残渣は、磯沼ミルクファーム様、服部牧場様が経営する牧場に提供して再利用しています。コーヒー残渣は牛舎の敷料にすることで牛たちの生活空間を快適にするとともに、牛舎内の臭いを和らげる効果があるため、近隣地域の環境維持にも貢献しています。  
また、磯沼ミルクファーム様では敷料として使用済みのコーヒー残渣と牛糞を混ぜて堆肥を生産・販売しています。牧場で再利用していただくことで、コーヒー残渣は土に還り、他の農作物を育てる循環が作られています。  
2025年度におきましては、コーヒー残渣の99%を牧場へ提供し再利用していただき、リサイクル率は昨年度に引き続き100%となりました。

## 麻袋の再利用

コーヒー生豆の輸送・保管に用いられる「麻袋」の再利用に取り組んでいます。  
神奈川総合工場では、製造工程の始めに麻袋を裁断し、中の生豆だけを製造ラインに投入します。空になった麻袋は、果樹園の敷材等の用途で農業に活用したりして、廃棄物の削減に努めています。  
また、資材メーカーと共同で麻袋のパルプ化に取り組んでおり、再生原料として製品資材にアップサイクルできないか、検討を進めています。



コーヒー残渣の活用方法



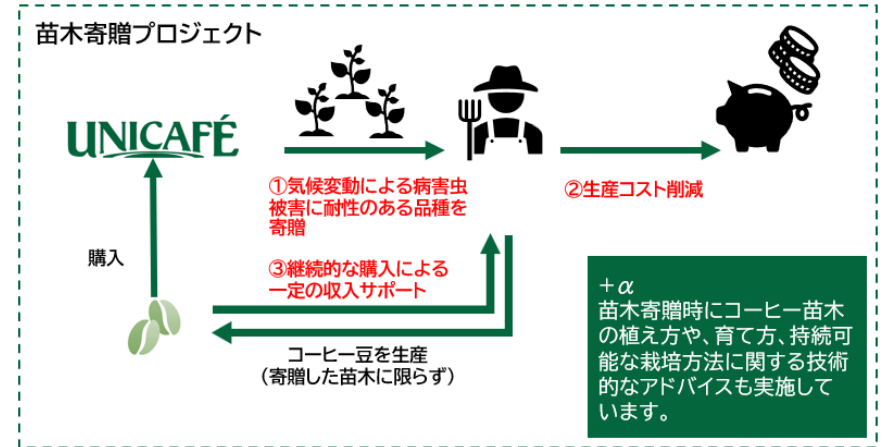
## 2. 持続的なサプライチェーンの維持

### ユニカフェグループが目指す姿

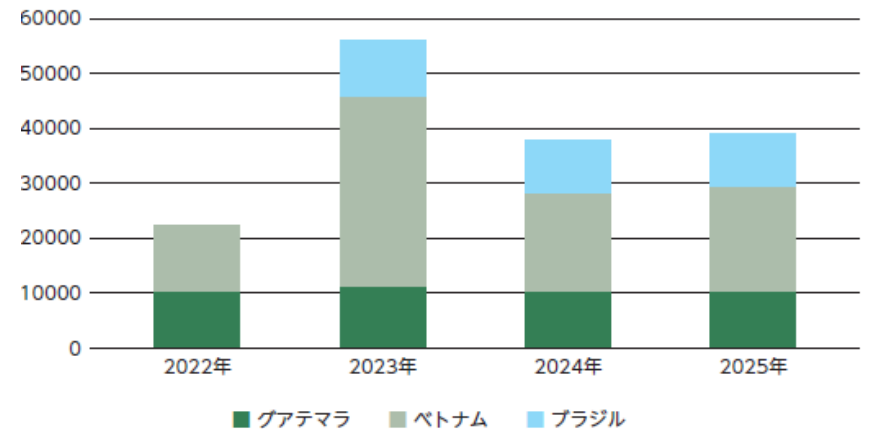
「From seed to cup」 - 遠く離れた生産地から、皆さんのマグカップにコーヒーが注がれるまでの間、コーヒーは様々な人の手を経て旅をします。わたしたちは、最終工程の焙煎・販売業者としてサプライチェーンの鎖の一つを担っていますが、消費国の一員として、このサプライチェーン上の全ての人が当たり前のように幸せにコーヒー産業に従事し続けられること、また誰もが気軽に品質の高いコーヒーを楽しむ続けられること、双方をサポートする責任があります。ユニカフェグループは、「ユニカフェの責任ある調達原則」、「ユニカフェ サプライヤ行動規範」を定め、ビジネスパートナーの方々と共に、持続的なサプライチェーンの維持に向けて協力して取り組んでいきます。

### 「苗木寄贈プロジェクト」によるコーヒー生産者支援

コーヒーの木は病気や老化により収量が低下するため、安定的な生産には定期的な植え替えが必要です。また、現在、価格変動、気候変動がコーヒーの栽培業の持続可能性を脅かしています。わたしたちは、生産者へコーヒーの苗木の寄贈を行うことで、生産国においてコーヒー豆の生産が継続的に行われるよう支援し、また寄贈したエリアのコーヒー豆を継続的に購入する「苗木寄贈プロジェクト」の取り組みを独自に行っています。寄贈する苗木は気候変動に耐性のある品種を選択しており、この活動で苗木が徐々に置き換わることで2050年問題への対策にもなっています。2022年から寄贈をスタートして4年、現在では、ベトナム、グアテマラ、ブラジルへの寄贈を行っており、寄贈本数は154,960本となりました。今後も同国に継続的な苗木の寄贈とコーヒー豆の購入を行うことを予定しており、引き続き産地での安定したコーヒー生産に貢献できるよう努めてまいります。



これまでに産地に寄贈した苗木本数



## 2.持続的なサプライチェーンの維持

### お取引先様へのサステナビリティ・セルフアセスメントの実施

ユニカフェグループでは、「ユニカフェグループの責任ある調達原則」、「サプライヤー行動規範」に則った調達を実施し、健全なサプライチェーンの維持に努めています。2024年度より、一部主要なお取引先様にご協力いただき、サステナビリティ・セルフ・アセスメントを実施しております。アセスメントの実施により、主要お取引先さまのサステナビリティなどに関する取り組み状況の確認とリスク把握を行っています。

実施結果の概要	2024年度	2025年度
対象企業社数	157社	135社
回答企業社数	96社	94社
回答率	61.1%	69.6%
平均得点率	74.6%	76.6%

アセスメントの結果は、お取引先様とともに成長していくためにフィードバックの上、状況の改善に向けた取り組み支援や、コミュニケーション強化などにつなげてまいります。



## 3.高品質な製品・魅力的な価値提供

### ユニカフェグループが目指す姿

わたしたちの事業を持続的に発展させていくためには、常に高品質な製品を安定的に供給していく誠実さが不可欠です。

また、常にお客様や消費者の方々に寄り添った製品を提供するためには、時代や価値観に合わせて魅力的な製品をご提案する柔軟さも必要です。

わたしたちは、皆様に高品質で安全・安心な製品を提供し、コーヒーを通して魅力的な価値をご提供するために努力し続けます。

### 健康などに配慮した機能・高付加価値製品の提供

平均寿命が延び、少子高齢化が進む中、心身共に永く健康を保ち、自律した生活を送り続けることが、多くの人の願望となっています。

コーヒーは人々の身近に、ごく当たり前にある飲み物の一つです。時には活力を、時には安らぎをもたらし、人々の笑顔とともにあるコーヒーで、健康を望む声にこたえられないだろうか？と考え、新たな時代への挑戦として、健康などに配慮した機能・高付加価値製品をご提供するべく、研究・開発を進めております。

また、R&Dセンターでは、コーヒーに関する基礎研究や、焙煎豆の研究、さらにコーヒー飲料の新製品開発に取り組んでいます。

コーヒーを科学的に見極め、香りや美味しさを実証するために、分析機器によるデジタルデータを積極的に活用しています。

わたしたちはコーヒーを科学し、価値を探求し、コーヒーの新時代を切り開きます。



## 4.多様な人材の活躍と連携

### ユニカフェグループが目指す姿

企業の発展は、従業員一人ひとりの活躍・成長とともに実現されます。ユニカフェグループが永続的に発展し、企業価値を向上していくために最も大切な資本の一つを「人材」と捉えています。自ら考え、行動できる人を育てること、またそれぞれの強みを見つけ、能力を発揮していく上で適切なキャリアパスを設定し、自ら実感を持って成長し続けられる環境・チャンスを提供できる人材育成を行ってまいります。

一方で、労働人口の減少や少子高齢化に伴う育児・介護の課題等、現代社会特有の課題もある中、個々人の人権が尊重され、多様性・それぞれのワークライフバランスを尊重しながら、安全・安心に働ける「職場環境」の整備も不可欠なものと考えております。ユニカフェグループは、「人材」と「職場環境」を両輪で組織戦略として取組んでおり、多様な人材の活躍と確保を含む、人材の育成及び社内環境整備に向けて以下の指標を掲げ、取り組みを実施しております。

取り組み	指標	目標	2025年度実績
人材育成	リスクマネジメント研修	年1回以上	1回
	コンプライアンス研修	年1回以上	1回
	情報セキュリティ研修	年1回以上	1回
	人権・ハラスメントに関する研修	年1回以上	1回
職場環境	管理職に占める女性管理職の割合	10%以上	11.4%
	男性労働者の育児休業取得率	毎年50%以上	100.0%

### 人権尊重への取り組みを行う

#### 人権・ハラスメントに関する教育研修の実施

ユニカフェグループ従業員としての人権への正しい理解と浸透の為に、ハラスメント研修等、人権に関する教育を実施しております。

### キャリアビジョンを明確にした人材育成を推進する 多様な人材が活躍できる労働環境を整備する

#### 教育・研修制度の充実

「人材育成」は経営にとって最重要テーマの一つであり、従業員の活躍・成長を促す為、等級・職位別研修体系図を定めております。具体的には、次世代人材育成のために選抜型教育研修やe-learningを用いた学習、自社資格「コーヒーアドバイザー」取得支援を全社で実施しています。世界的な課題であるSDGsの教育もサステナビリティ委員会を中心に行っています。

また、委員会が毎月発行する「サステナビリティ通信」を通じて、全従業員向けに情報を発信しています。加えて、神奈川総合工場では安全を徹底するために安全パトロールを実施する他、危機体感教育を含めた安全教育を実施しています。

## 5.コーポレート・ガバナンスの徹底

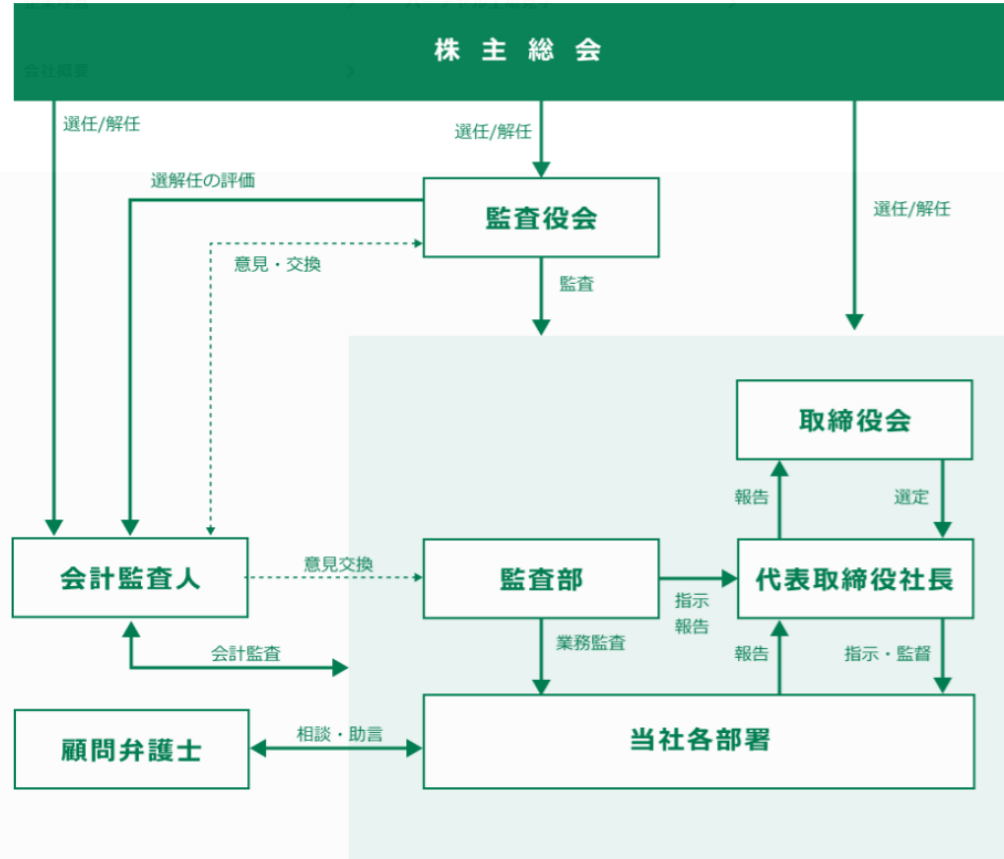
### ユニカフェグループが目指す姿

ユニカフェは、株主を中心とするステークホルダーをコミュニティとし、そのコミュニティに存在する共通の善を全うすることを正義として行動してまいります。

ユニカフェは、企業価値を『株主価値・顧客価値・人財価値』の三要素から成るものと考えております。『企業価値の向上』はわたしたちの共通善のひとつであり、企業価値の向上を目的としてこれらの三要素の拡大に経営資源を集中することがわたしたちの正義と捉えております。

さらに、『存続すること(Sustainability; サステナビリティ)』をわたしたちの共通善のひとつとし、取締役会の活性化、監査役会及び内部監査制度の充実、適時適切な情報開示、投資家向け広報活動(IR活動)の活性化に注力することが、わたしたちの正義と捉えております。

ユニカフェはこれら基本的な考え方を経営の拠り所とし、コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みを継続的に進め、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、透明かつ健全な経営を全うしてまいります。



### リスクマネジメント

各種部門ごとの規定に則って、適切にリスク管理を行っております。

特に、製品の品質、コンプライアンス、情報セキュリティを重点リスクと位置付けて、常設会議体において、適宜、把握と対応に努めています。

### コンプライアンス

#### コンプライアンス遵守

ユニカフェグループでは、事業に関わる各種法令を遵守します。

また、企業倫理や社会規範に則って誠実な事業運営を行います。

適切な運営のため、全従業員に対して年1回コンプライアンス研修を実施し、知識のアップデートを図るとともに、年1回コンプライアンス・ディスカッションで法令違反のケーススタディに則ったチームディスカッションを実施し、コンプライアンス遵守に対する意識を高めています。

### 情報セキュリティ

年1回の情報セキュリティ研修の実施とともに、不定期でフィッシングメールを模したメールを配信し、研修の成果として適切な対処ができているか、確認と再教育まで徹底しています。

# 人権の尊重—人権デューデリジェンスの実施

## 人権の尊重

私たちの事業が持続的に発展していくためには、製品やサービスの品質の向上だけでなく、法令遵守はもちろん、社会が求める倫理的な責任を果たすことが不可欠です。ユニカフェグループは、従業員および役員ひとりひとりが人権への理解を深め、人権尊重の責任を果たすために、「ユニカフェグループ人権方針」を定めました。私たちはこの方針に基づき、人権が尊重される社会の実現を目指します。

この人権方針は、ユニカフェグループの行動指針「ユニカフェグループ社員の行動規範」とサプライヤーに期待することを定めた「ユニカフェ サプライヤー行動規範」にも反映され、「責任ある調達原則」の「人権の尊重」に関する上位方針として位置づけられています。方針策定後も、社員やサプライヤーなどのステークホルダーとの対話を通じて更に理解を深める努力を継続することが重要であると考えています。

## 人権デューデリジェンスの実施

人権方針の策定にあたり、人権への負の影響リスクの把握と特定・予防・軽減・対応を行うため人権デューデリジェンスを実施しました。

人権デューデリジェンスは、人権への負の影響の防止・軽減を図るための継続的なプロセスです。進捗状況は適時適切に開示してまいります。

### ・負の影響の特定・評価及び優先順位付け

人権リスク評価において、まず人権への負の影響がどのように発生するか（誰がどのような人権について負の影響を受けるか）を具体的に特定していきました。

負の影響の特定にあたっては、社内外の資料ならびに公開情報による整理のほか、ステークホルダーへのヒアリングを行い情報収集を行いました。これらの情報を踏まえ、経済産業省のガイドラインを基に、右記のプロセスで人権への負の影響と企業の関わりを評価し、優先順位の整理を行いました。

なお、評価は人権への負の影響が多く確認された、バリューチェーンの上流(コーヒー豆生産現場)と中流(当社グループ)の二つに分けて実施しました。

- ・企業の関わりの評価: 自社が負の影響を引き起こしたか(引き起こす可能性があるか)、負の影響を助長したか(助長する可能性があるか)、又は、負の影響が自社の事業・製品・サービスと直接関連しているか(直接関連する可能性があるか)について評価
- ・深刻度と発生可能性のリスク評価: 深刻度は3つの観点(規模・範囲・救済困難度)で評価
- ・優先順位の整理: 「企業の関わり」の評価」「深刻性と発生可能性」のリスク評価を行った上で、各リスクの優先順位付けを実施

上記のプロセスの結果、サプライチェーン上流のコーヒー豆生産現場において、労働安全面での人権リスクが非常に高いことが特定されました。ユニカフェグループでは、現在行っている責任ある調達原則に基づく取り組みを引き続き推進してまいります。

Step1: 負の影響(人権侵害リスク)の発生過程の特定



Step2: 負の影響(人権侵害リスク)と企業の関わりの評価及び優先順位付け

人権リスク評価のステップ

## 上流(コーヒー豆生産現場)の対応状況と負の影響の防止・軽減策

上流(コーヒー豆生産現場)に対して取りうる策は大きく分けて、「負の影響に関与していないとされるコーヒー豆の調達に努めること」と、課題のある産地に対して「課題を解消するための支援を提供すること」が考えられます。

ユニカフェグループが行っているコーヒー豆生産現場に関する取り組みは以下のとおりです。

### ・コーヒー豆の調達に関する取り組み

ユニカフェグループでは「責任ある調達原則」と「サプライヤー行動規範」を策定し、持続的なサプライチェーンの維持に向けて取り組んでいます。

また、上記調達原則に沿ったサステナビリティ・セルフ・アセスメントを主要取引先を対象に実施し、取引先の取り組み状況の確認とリスク把握に取り組んでいます。

そして、ユニカフェグループとして、認証原料の使用を推進・推奨しています。

優先順位が高いと特定された負の影響項目については、サステナビリティ・セルフ・アセスメントの設問項目において定期的に確認を行ってまいります。

### ・産地支援に関する取り組み

ユニカフェグループではコーヒー生産者支援として「苗木寄贈プロジェクト」を2022年より実施しています。

ベトナム・グアテマラ・ブラジルへの寄贈を毎年行っており、寄贈本数は2025年末時点で累計154,960本となりました。

今後も同国に継続的な苗木の寄贈とコーヒー豆の購入を行うことを予定しており、引き続き産地での安定したコーヒー生産に貢献できるよう努めてまいります。



## 中流(ユニカフェグループ)の対応状況と負の影響の防止・軽減策

ユニカフェグループでは、従業員一人ひとりが人権への理解を深め、人権尊重の責任を果たしていくため、以下の取り組みを行っています。

### ・労働安全衛生の取り組み

ユニカフェグループでは、従業員の健康と安全の確保が企業活動の最重要基盤であると認識し、安全衛生方針に則り全社一丸となった安全衛生活動を推進しています。

過重労働の防止や労働安全の課題に対しては、安全衛生委員会を中心にリスクの防止・軽減に寄与する改善策を検討し、実施しています。

### ・従業員向け苦情処理メカニズムの周知

雇用における差別的待遇の防止のため、毎年職場アンケートによる実態把握、投書箱やホットラインなどの通報窓口の設置、ハラスメント防止研修を継続して行っています。従業員向けの苦情処理メカニズムは、直接雇用、非正規雇用に関わらず受け付けており、通報者に対する不利益な扱いについては一切しないことを保証する制度となっています。

### ・差別の禁止、ハラスメント防止に関する社内研修の実施

ユニカフェグループでは、従業員に対しあらゆる差別の禁止やハラスメント防止を目的とした研修を継続的に実施しています。

研修では、ハラスメントや差別の具体的な事例も例示しながら、従業員一人ひとりの人権への意識向上を図っています。



## ロードマップ

人権デューデリジェンスにおいて特定できた負の影響(人権侵害リスク)に対する優先順位付けと、負の影響の防止・軽減策を踏まえ、今後ユニカフェグループが実施していくロードマップは以下の通りです。

人権侵害リスク軽減のため、今後も取り組みを進めてまいります。

		～2025年度	2026～2029年度	2030年度
方針による コミットメント	人権方針	人権方針の 策定・公開	グループ内外への浸透 (グループ内および主要サプライヤーへの研修の実施)	
人権デュー・ デリジェンス	人権リスクの 評価	人権リスク評価 の実施		人権リスク評価 再実施
	負の影響の 防止・軽減	サプライチェーン	ユニカフェグループの「責任ある調達原則」「サプライヤー行動規範」に基づく調達	
			既存の取組を継続(サステナビリティ・セルフアセスメント)	
			サプライチェーン上流の優先度が高い人権項目について、SAQおよびサプライヤーの状況を再確認	必要に応じてSAQに反映
	ユニカフェグループ	産地支援の検討・実施		
	グループ内従業員の顕著な人権課題の防止・軽減策の継続実施 (労働時間、労働安全衛生、差別・ハラスメント、男女格差等に関し、既存人事方針の運用、社員アンケートによる実態把握等)			
	取り組みの 実効性評価	上記負の影響の防止・軽減策に対する モニタリング・レビューの体制構築	モニタリング・レビューの実施	
	説明・情報開示	サステナビリティレポートの発行		
是正	苦情処理 メカニズム	取引先向けの苦情受付窓口、勤務者向けの社外ホットラインの運用		
		従業員・サプライチェーン関係者へ通報窓口の周知		

# UNICAFÉ

株式会社ユニカフェ サステナビリティ委員会  
2026年3月  
お問合せ先:[sustainability@unicafe.co.jp](mailto:sustainability@unicafe.co.jp)